

がん検診について（胃がん）

えはら内科クリニック 院長
江原浩司 先生

太田市では毎年5月1日から11月30日にかけて、がん検診を実施しています。がん検診には、胃がん、大腸がん、前立腺がん、子宮頸がん、乳がん、肺がんの検診があります。今回は胃がん検診について説明させていただきます。

胃がん検診は大きく分けて二つあります。決まった日時に検診車が来てレントゲン撮影を行う集団検診と、各診療所や病院でレントゲン検査か内視鏡検査を行う個別検診です。胃がん検診の受診者のほとんどは個別検診での受診で、9割の人が内視鏡検査を受けています。胃がん検診を内視鏡で行っている所はまだ全国でも少ないですが、レントゲン検査よりもがんの発見率が高く、内視鏡治療が可能な早期でのがん発見も多いことが報告されています。最近では経鼻内視鏡といって細い管を口からではなく鼻から通すことで、ゲーゲーするなどの嘔吐反射が少なく、検査自体も楽になってきていることもあり、内視鏡検査による検診が浸透しています。またピロリ菌の感染が胃がんの原因の一つであると明らかになったことと、内視鏡検査でピロリ感染胃炎を認めれば保険診療での除菌治療もできるようになりました。太田市医師会では、特定健診受診時にピロリ感染が不明な人には医師会の補助でピロリ抗体の測定を行っています。（医師会ではピロリ検診と呼んでいます）。ピロリ感染が疑われた人は市のがん検診を受けていただくように勧めていますが、陰性の人でも一度は内視鏡検査を受けて胃に問題がないことを確認していただけたらと思います。

例年けんしん終了近くになると混雑してくるため、受診券が届いたら早めにけんしん実施医療機関にご相談してください。